令和７年度　森づくりに関する施策の実施状況
（ふくいの森林・林業の未来を切り拓く基本計画）









「地域を支える、稼げる林業」

福　井　県

目　次

	ページ
１．ふくいの森林・林業の未来を切り拓く基本計画の全体像	1
２．各プロジェクトの概要	3
３．計画期間および数値目標と実績	5
４．令和７年度の取り組み	
① Fukui　Forest　Design推進プロジェクト	6
② 森を「守り」「活かし」「慈しむ」推進プロジェクト	7

ふくいの森林・林業の未来を切り拓く基本計画の全体像

目　指　す　姿

令和５年９月に福井県独自の取組みとして打ち出した「Fukui Forest Design」を軸にした各種施策により、山の価値を最大化し、「稼げる林業」と「山村地域の活性化」を目指していく。

基　本　理　念

地域を支える、稼げる林業

計　画　の　全　体　像

１．森林のゾーニング

人工林12万haを収益性と災害リスクを基にゾーニングし、資源の循環利用と環境保全に適した森林整備を推進

① 災害リスクの低い林業適地では、「大きな林業（ふくい型林業経営モデル）」による施業
② 人家裏などの非皆伐施業が適した地域では、「小さな林業（自伐型林業）」等による小規模・多間伐施業
③ 収益性の低い林業不適地では、公的整備による針広混交林へ誘導するなど、自然力を活用した施業

森林のゾーニング（イメージ図）



２．施策の方向性

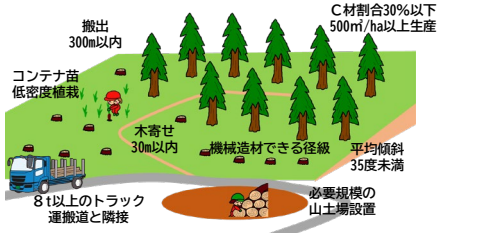
① Fukui Forest Design 推進プロジェクト

○「主伐・再造林・保育など森林施業の低コスト化」と「原木の価値に応じた需要の創出」により循環型林業を行い、『稼げる林業』を実現。
　また、主伐の拡大や主伐後の再造林や保育を担う「人材の確保・育成」を推進

大きな林業（ふくい型林業経営モデル）

◆主伐等の低コスト化

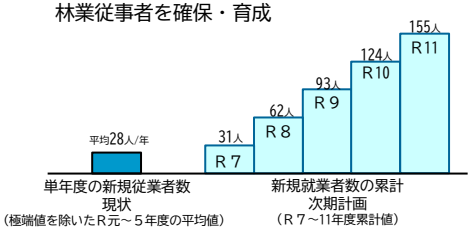
主伐地の集約化・土場の整備等によりコストを低減



ふくい型林業経営モデルのイメージ

◆人材の確保・育成

入職の促進、離職防止および林業カレッジにより林業従事者を確保・育成

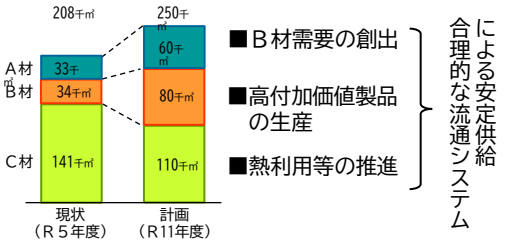


新規就業者数の現状と計画

＋

県産材の需要拡大

◆原木の価値に応じた需要の創出



林業による木材生産量

＝ 稼げる林業

○ 簡易な機械で木材生産を行う自伐型林業と森林を活用したトレイルイベントやマウンテンバイクレースの開催など森林ビジネスの展開により『山村地域の活性化』を推進

小さな林業（自伐型林業と副業）


地域おこし協力隊の採用促進



自伐型林業大学校等への支援


森林所有者からのフィールド確保


森林を活用した半林半X

・自伐型林業の推進による移住・定住の促進
・自伐型林業団体の設立や既存団体で活動しやすい環境づくり
・自伐型林業の活動フィールドの確保
・稼げる半林半Xのモデルづくり

＝ 山村地域の活性化

② 森を「守り」「活かし」「慈しむ」推進プロジェクト

○ 災害等から暮らしを「守り」、特用林産物の生産や森林の体験・観光利用など森の恵みを最大限に「活かし」、県民一丸となって森を守り育て、次世代に引き継ぐ機運（「慈しむ」心）を醸成

災害対策	○山地防災力の強化に向けた治山事業等の推進 ○公益的機能を最大限に発揮する森づくりの推進
森林ビジネス	○特用林産物の生産振興および地域資源を活用した新たな森林ビジネスの展開
県民運動	○全国育樹祭の開催理念を承継した緑と花の県民運動の永続的な展開

ふくいの森林・林業の未来を切り拓く基本計画の概要

【基本理念】　地域を支える、稼げる林業

【計画期間】　令和７年度～令和11年度

【数値目標】

	（Ｒ５）		（R11）
県産材生産量※1	：239千㎥	→	270千㎥
（林業による木材生産量	：208千㎥	→	250千㎥）
林業生産額※2	：28億円	→	32億円

※１：公共工事等で発生した支障木を加算した総生産量
※２：※１の総生産額に特用林産生産額を加算した額

Fukui Forest Design 推進プロジェクト

Ⅰ．大きな林業（ふくい型林業経営モデル）の推進

１．効率的な主伐・再造林・保育の推進

（１）主伐地の集約化によるふくい型林業経営モデルの展開
（２）県産種苗の安定供給体制の構築
（３）ＩＣＴ技術や新たな林業機械を活用した林業経営の効率化

２．担い手の確保・育成の推進

（１）主伐・再造林等を担う人材の確保・育成
（２）雇用環境の改善および労働安全対策の強化


新たな林業機械による効率的な木材搬出

Ⅱ．小さな林業（自伐型林業と副業）の推進

（１）都市部からの移住・定住や自伐型林業団体設立等の促進
（２）稼げる半林半Ｘのモデルづくり

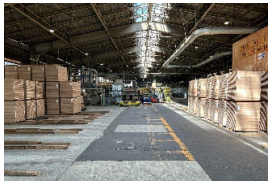


自伐型林業大学校の開校

Ⅲ．県産材の需要拡大

１．Ｂ材工場の誘致等による県産材の需要拡大

（１）Ｂ材加工工場の誘致
（２）不燃材や防腐処理材などふくいの技を活かした高付加価値製品の生産
（３）意欲的な製材所等の連携による都市圏や海外での販路開拓
（４）公共・民間施設など非住宅分野での利用推進
（５）木質バイオマスの利用推進


Ｂ材工場（イメージ）

２．製材所や工務店の需要に的確に対応できる流通体制の構築

（１）ＩＣＴ技術を活用した県産材の需給調整を統括するシステムの構築
（２）意欲ある製材所の育成

３．県産材利用の理解を深めるふくいの木づかい運動の継続

（１）ふくいの木づかい運動の展開
（２）企業を対象としたセミナー等の開催


フクモクフェス

森を「守り」「活かし」「慈しむ」推進プロジェクト

Ⅰ．山地防災力の強化に向けた治山事業等の推進

（１）ＩＣＴ技術を活用した森林土木工事の推進
（２）大規模災害への対応に向けた体制づくり
（３）防災・減災・国土強靭化に向けた事業の推進

Ⅱ．公益的機能を最大限に発揮する森づくりの推進

（１）県有林におけるＪ-クレジットの創出
（２）獣害や病虫害に強い森づくりの強化

Ⅲ．特用林産物の生産振興および地域資源を活用した新たな森林ビジネスの展開

（１）新規生産者の開拓と栽培技術・生産量の向上（香福茸）
（２）林業遺産や地域特産品の振興
（３）山村地域の資源を活用した新たな森林ビジネスの展開

Ⅳ．全国育樹祭の開催理念を承継した緑と花の県民運動の永続的な展開

（１）緑と花の県民運動の推進に加え「木を伐って使い、植え育てる」機運を県全体に浸透
（２）ふくいの自然や木の良さを伝え、触れ合える機会の創出


香福茸新規生産者向け研修会

1 Fukui Forest Design推進プロジェクト

利用期を迎えた森林資源を有効に活用するため、県産材の需要拡大を図り、ふくい型林業経営モデルによる循環型林業経営を行う「大きな林業」と、自伐型林業などにより山村地域の活性化を図る「小さな林業」を両輪とした「Fukui Forest Design」を推進します。

	（R５）		（R11）		（R５）		（R11）
県産材生産量※1：	239千㎥	→	270千㎥	林業生産額※2：	28億円	→	32億円
（林業による木材生産量	208千㎥	→	250千㎥）				

※１：公共工事等で発生した支障木を加算した総生産量
※２：※１の総生産額に特用林産生産額を加算した額

Ⅰ．大きな林業（ふくい型林業経営モデル）の推進
Ⅱ．小さな林業（自伐型林業と副業）の推進
Ⅲ．県産材の需要拡大

2 森を「守り」「活かし」「慈しむ」推進プロジェクト

治山事業等による山地防災力強化や、自然の力を生かした森づくりを推進するとともに、新たな森林ビジネスの展開や森林環境教育の開催を通じて、森を「守り」「活かし」「慈しむ」プロジェクトを推進します。

Ⅰ．山地防災力の強化に向けた治山事業等の推進
Ⅱ．公益的機能を最大限に発揮する森づくりの推進
Ⅲ．特用林産物の生産振興および地域資源を活用した新たな森林ビジネスの展開
Ⅳ．全国育樹祭の開催理念を承継した緑と花の県民運動の永続的な展開

３　計画期間および数値目標と実績

【計画期間】　　令和７年度～令和１１年度（５年間）

【数値目標と実績】

	項目	R７年度　実績	R11年度　目標
数値目標	林業による木材生産量	20.7万㎥	25万㎥
	林業による木材生産額	19億円	22億円
	県産材生産量	22.4万㎥	27万㎥
	県産材生産額	21億円	23億円
	林業生産額	30億円	32億円
Fukui Forest Design 推進プロジェクト	ふくい型林業経営モデル集約エリア	33区域（累計）	50区域（累計）
	主伐材積	9.3万㎥	15万㎥
	間伐材積	11.4万㎥	10万㎥
	主伐生産性	10.9㎥/人日	11㎥/人日
	間伐生産性	6.9㎥/人日	7㎥/人日
	新規就業者数	24人（累計）	155人（５年間累計）
	県産材製品の県外・海外への販売額	2.1億円	2.5億円
	ふくいの木づかい運動参加者	18,364人	18,000人
	自伐型林業取組み者数	71人	111人（累計）
森を 「守り」「活かし」「慈しむ」 推進プロジェクト	山地災害危険地区の見直し	4市町	17市町
	針広混交林	2,618ha（累計）	3,500ha（累計）
	香福茸生産量	226kg	400kg
	新たに森林ビジネスに取り組む団体	4団体（累計）	15団体（５年間累計）
	緑と花の県民運動参加者数	64,917人	70,000人

令和７年度の取組み

１　Fukui Forest Design推進プロジェクト

- 「大きな林業」では、ふくい型林業経営モデル集約エリアを新たに19区域設定（累計33区域）し、主伐地等の集約化を進めたことで木材生産性が向上
- 「ふくい林業カレッジ」では、早期就業希望者向けの短期コース（3か月）で2名、長期コース（1年）では4名を育成
- 「小さな林業」では、自伐型林業大学校への支援や移住給付金の支給等により、県内の活動団体が合計13団体・71名まで増加
- 自伐型林業を契機として、首都圏をはじめ都市部から旧美山町などへ4名が移住
- 県産材を使用する住宅の新築およびリフォーム、民間施設の木造・木質化、木製品の導入へ支援し、県産材の利用を拡大



主伐・再造林
（福井市居倉）



自伐型林業大学校開校式
（福井市大宮町）



県産木材を使用した住宅
（小浜市・新築）

2　森を「守り」「活かし」「慈しむ」推進プロジェクト

- 各世代に応じた森林環境教育の推進として、小中学校9校、職業系高等学校2校、大学3校で森林・林業・木材産業体験会を開催
- 香福茸の生産拡大に向けた生産技術研修会等を通じて新規生産の働きかけを実施
- 航空レーザ測量データを活用し、山地災害危険地区の危険度判定を見直し（4市町）
- 既設治山施設の補修や機能強化を実施（3箇所）
- 列状間伐により広葉樹の導入を促す針広混交林化など多様性のある森林へ誘導
- 全国育樹祭の開催理念を承継した「みどりと花の県民運動大会」を開催し、幅広い世代を対象に、林業機械の実演や花の寄せ植え体験等を実施（6月）



森林・林業現地体験会
（武生商工高等学校　他）



治山施設【落石防護柵等】の補修
（越前町左右）



みどりと花の県民運動大会
（林業機械の実演）